

上田駅お城口地区第二種市街地再開発事業

受賞機関 上田市

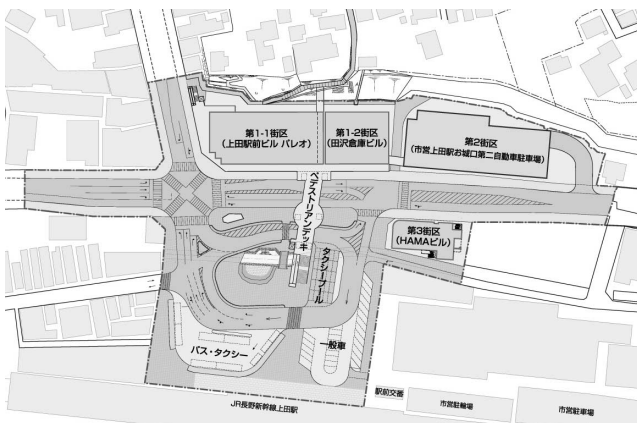
はじめに

上田市は、長野県の東部に位置し中心部を千曲川が流れる盆地であり、人口約12万5千人、面積176.73km²の東信地方の中核都市である。

上田駅お城口地区は駅北側に位置し、商業・業務の中心的役割を担う地域であるが、低層の木造建築物が多く小規模商業施設や住宅が混在しており、防災や土地利用の面で問題があるうえ、道路等都市基盤の整備も不十分な状況にあった。このため、再開発事業により上田地域の玄関口にふさわしい駅前整備を行うこととなった。

事業の概要

- ・ 施 行 者：上田市
- ・ 地 区 面 積：2.3ha
- ・ 施 行 期 間：平成9年度～15年度
- ・ 権 利 者：82人
- ・ 施設建築物：再開発ビル4棟
延べ床面積 20,223m²
商業・業務施設、公益施設(上田情報ライブラリー)、
ホテル(120室)、駐車場(240台)、共同住宅(27戸)
- ・ 公共施設：都市計画道路秋和踏入線(L=280m、
W=18~22m)
駅前広場(A=8,800m²)
- ・ 事業費：160億円



施設配置図

事業の特徴

事業実施にあたっては、地域の実情等を考慮した第二種事業(用地買収方式)により事業化し、法改正により新たに可能となった権利床を含む建物への

特定建築者制度の導入等、様々な権利者の意向に対応したビルを建築した。

施設内容は、商業・文化・情報の拠点として構成し、地域資料、生活・ビジネス支援の情報発信や、諸証明の発行カウンター等を備えた「上田情報ライブラリー」を設置する等、駅利用者や来訪者が広く利用できる内容としている。

駅前広場の整備計画は、市民も参加した検討委員会にて検討を重ね、「上田らしさ」の大きな要素である千曲川と周辺の里山から成る美しい景観から「水と緑」をテーマに掲げた計画とした。



全景

(1) 環境への配慮

歩車道の舗装に陶磁器の廃材を利用したブロックや、水路のフェンスとバス、タクシー乗場、階段状デッキの床材などに、建物の取り壊しなどで発生した古い木材や廃プラスチックを原料とした再生木材を使用した。また、ペDESTリアンデッキのエスカレーターの屋根に、太陽電池パネル(最大発電電力3.9kwh)を設置し太陽光発電を行い、広場内の照明灯等に利用している。

(2) ユニバーサルデザイン

広場内の車道と歩道の段差をなくし、また、歩道舗装に透水性のブロックを使用し、雨天時でも歩行者が快適に歩けるようにし、誰もが使いやすい広場としている。

(3) 既存施設の活用

広場内にあった既存の用水路(暗渠)を、開渠にし、川沿いに階段状デッキを設けるとともに、以前にこの川で実際に動力として使われていた水車をモニュメントして甦らせ、利用者が親しみ憩える水辺空間を創出した。

賛助会員 ㈱大林組